

商社と製造業の両面から知財を見つめ、育成する

事業内容

ヒータ、コントローラ、特殊ガス配管等の設計・製造・販売。液面レベルセンサ、近接スイッチ他の各種センサの開発・製造・販売、防犯機器や病院用設備機器等の販売など。

特許登録番号と内容

特許第 4604280 号	ワイドヒステリシス型フロートスイッチ
特許第 4192267 号	自己保持型近接スイッチ
特許第 4116409 号	静電容量式センサ（日星電気株式会社と共同）
実用新案第 3123354 号	半導体ウエハーにおけるヒータ装置
商標登録第 4934715 号	デライトップ/ DelighTop

(2011年3月現在)



代表取締役社長 百村賢司さん

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA

10年後を見据えた戦略展開。背景には大切に培ってきた人脈と知財の存在が

ワッティー株式会社は、産業用ヒータや半導体・LCD 製造向けのクリーン仕様特殊ガス管の設計製造等を手掛ける「熱システム事業部」と、空焚きや溢水防止等のための液面の水位レベルの検知機器を扱う「センサ事業部」、さらに、営業窓口から他社との共同開発・製造を行う「特機事業部」という3つの柱を持つ。

百村賢司代表取締役社長は「当社はもともと、商社として、特定のお客さまに OEM を提供するなどをしていました。しかしこのスタイルだけでは、10年後、20年後の自社の姿が見えてこなかったのです」と振り返る。そこで、新たに熱システムとセンサの事業を立ち上げた。以後、双方とも自社工場を構えるまでに成長。商社からメーカーへの転身は難しいといわれる中、成功した要因について百村社長は「昔からお付き合いいただいているお客さまとの信頼関係、そして他社と共同で製品開発に携わってきたので、ある程度のノウハウの蓄積があったことかもしれませんね」と、人脈と知財の力を挙げる。

また、たとえば一言で「産業用ヒータ」といっても、種類は多岐に渡る。同社は主に半導体の製造装置向けの精密な製品を作っており、搭載する装置によってサイズも構造も異なってくる。「液面レベルセンサ」についても、超音波や光、磁気と、応用するものはさまざま。加えて、水や薬液、オイルといった液体の種類や粘度

によっても方式が違うので、その種類は実に多い。

取締役執行役員であり、経営企画室室長・業務部長の菅波啓氏は「同じ製品を大量に製造するのは大手企業の得意技。それに対し、当社はオーダーメイド的な業務が多い。手間は掛かりますが、業績を伸ばせたのは、これもよかったです」と分析する。

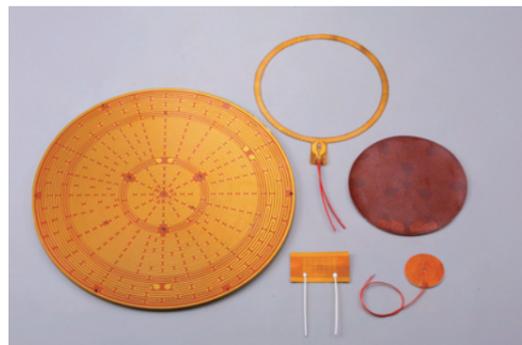


取締役（業務担当）執行役員
経営企画室 室長
兼 業務部 部長
菅波 啓さん

日常業務の中でも情報の扱いやリスクへの意識付けを行う

順調に成長を続ける同社は、知財についてもトラブルに巻き込まれたことはない。ただ2006年に1度だけ、“弊社の特許に抵触しているのではないかと”問い合わせが来たことはあるという。問題になったのは、参考製品として展示会に出し、特許申請もしていたものだ。「そこで先方の知財を侵害しないよう、注意を払ってリリースしました」と菅波部長。その後、先方から“騒ぎ立てて申し訳ない”と連絡があり、誤解はスムーズに解けたという。と同時に、あらためて知財権について考えるきっかけにもなったようだ。

そんな同社では、製造部門で優れたアイデアや技術が生まれると、現場の責任者が百村社長に相談。そこ



厚さ200μmの極薄ヒータ「プロキュア®P」

で知財権の取得をしようという結論が出れば、外部の特許事務所に手続きを依頼するという流れになっている。ただ百村社長は「ほとんどの場合、知財権の取得は見送ります」という。形状や構造など、見ればわかるものは申請するケースもあるものの、製造ノウハウといった外見からはわからない分野は伏せることが多い。模倣されるのを防ぐ、リスク管理のためだ。

そして取引先をはじめ、社外の人を自社工場に迎えることもある。その際は万が一にも製造中の製品が第三者の目に触れることのないように、細心の注意を払っている。「社長自らが社員に向けて、情報の取り扱いについては常に慎重になること、さらに何が社外秘事項かをしっかり認識し、徹底する大切さを話しています」と菅波部長はいう。

加えて、突然社長が工場を訪れることもある。それについて百村社長は「工場内の整理整頓や書類の管理などに関しては、“慎重になり過ぎ”ということはありませんから、常に緊張感を持ってほしいと思っています。さまざまな方法で、知財管理の意識付けを行っている。

ビジネス直結だけでなく経営理念にも積極的に利用

「一品入魂」「自己ベスト更新主義」……百村社長は、自分の思いを伝えるために、今までさまざまなスローガンを掲げてきた。経営理念に関しても、一つの言葉に集約してわかりやすさを大切にしている。たとえば「デライトップ」。これは“デライト”と“トップ”を合わせた百村社長の造語で「私たちは感動を与える会社でありたい。そしてその中でも

COMPANY DATA

所在地：〒141-0031 東京都品川区西五反田7-18-2 ワッティー本社ビル
電話番号：03-3779-1001 URL：http://www.watty.co.jp/
設立：1968年5月23日 資本金：9,500万円
売上高：101億円（2008年度実績） 従業員数：125人（2011年4月現在）



上下限制御型
フロートスイッチ
(特許製品)
HL-M-R

上下限制御型
フロートスイッチ
(特許製品)
HL-L1-R

自社の知財が役立っていることが社員のモチベーションの糧に

知財権に関しては、今後もリスクを考えながら申請の有無を考えていく方針だ。ただ万が一、模倣されたときも、大きなダメージは考えられない内容に関しては「開発した技術者からの要望があれば、モチベーションを高めるためにも前向きに申請を検討します」と百村社長は答える。また「受け止め方は人それぞれ」という前提で、製造の現場に関しても自分たちの技術や製品が、どこでどう役立っているかも伝え、仕事の意義を実感してほしいと考えている。

さりげなく行う同社の知財教育から、学ぶ点は数多くありそうだ。

知的財産活用のポイント

トップを目指そう」という思いを込めたという。この言葉は2006年に商標を取得した。

以後、年に一度、製造や間接部門を中心に、感動を与えてくれた人に「デライトップ賞」として表彰状と記念品を贈呈。多いときは10人ほど選ばれている。

経営陣の思いや風土の社内浸透や確立など、知財の活用方法はビジネス直結以外にもありそうだ。